

3月1日

ネットTV「デモクラシー・ナウ」より文字起こし

## 戦争のエスカレーション阻止へ非暴力の抵抗を

### はじめに

ウクライナ平和主義運動のユーリイ・シェリアジェンコ事務局長は3月1日、キエフから「デモクラシー・ナウ」のインタビューに応じて、侵攻ロシア軍にたいし多くのウクライナ市民が非暴力の抵抗にたちあがっていると報告しました。

米 NATO とロシア双方に軍事的対立をあおる援助や介入をやめ、平和的話し合いに戻るよう求めました。以下は番組に出演した同氏の発言です。

### 無謀な軍国主義が戦争につながった

**司会** シェリアジェンコさん、ようこそ。ロシア軍の侵攻の直前にもお話を伺いましたが、今、現場で何が起きているのでしょうか。平和主義者として何を訴えているのか、お話しいただけますか？

**ユーリイ・シェリアジェンコ** 今日はよろしくお願ひします。バランスのとれた報道姿勢で、私たちの平和のための抗議行動を取り上げていただき、ありがとうございます。

東西間の軍事化、政治化が行き過ぎていと、私は感じています。

無謀な軍事行動、NATO の拡大、ロシアのウクライナへの侵攻と世界への核の脅し、ウクライナの軍事化、国際機関からのロシアの排除とロシア外交官の追放。これらによって、文字通りプーチンを外交から戦争へのエスカレーションへと追い込んでいます。

**怒りにまかせて人類の最後の絆を断ち切る**のではなく、地球上のすべての人々のコミュニケーションと協力の場を維持し、強化することがこれまで以上に必要です。そのためにこそ個々の努力が重要だと思ひます。

とても残念なことは、西側諸国でのウクライナ支援が、主に軍事支援とロシアへの痛みを伴う経済制裁の発動であり、紛争に関する報道は戦争に焦点があてられていて、戦争への非暴力的抵抗がほとんど無視されていることです。

勇敢なウクライナの市民は、道路標識を変え、道を塞いで戦車をこぼみ、武器もたずに戦車にたちはだかり、戦争を止めようとしています。例えば、ベルジャンスク市やクリュクヴカ村では、人々が平和集会を開き、ロシア軍に退去するよう説得しました。

平和運動は、無謀な軍国主義化は戦争につながると何年も前から警告してきました。私たちは正しかったのです。

私たちは、平和的な紛争解決を求め、侵略に対しては非暴力の抵抗をよびかけ、多くの人々がその覚悟をしました。

私たちは、人権と難民を助ける普遍的な義務を支持しました。それは今という日々を救い、常に存在する平和的解決への希望を与えています。

私は、すべての人々の普遍的な平和と幸福、そして今日も永遠に戦争がないことを祈っています。しかし、残念ながら、私の美しい街、ウクライナの首都キエフやその他のウクライナの都市は、ロシアによる爆撃の標的になっています。

このインタビューの直前にも、窓から遠くの爆発音が聞こえてきました。ここ数日、日中何度もサイレンが鳴り響いています。ロシアの侵略により、子供を含む何百人もの人々が殺されています。何千人もの人々が負傷しています。

ウクライナ政府とロシアが支援するドンバス分離主義者との間での 8 年にわたる戦争の結果、ロシアやヨーロッパで何百万人もの国内避難民や難民が発生し、何十万人もの人々が家を失い、海外に避難しようとしています。

18歳から60歳までのすべての男は、海外への移動の自由が制限されています。良心的兵役拒否者や戦争から逃れてきた人々も、例外なく戦争に参加するよう呼びかけられています。国際戦争抵抗者連合はこのことを強く批判し、この決定の撤回を要求しました。

## **世界の反戦運動に励まされ**

ロシアでの大規模な反戦集会に敬服します。人びとは平和を求め、逮捕や処罰の恐れがある中でプーチンの戦争マシーンに非暴力で反対しています。私たちの友人であるロシアの良心的兵役拒否運動は、ヨーロッパ良心的兵役拒否事務局のメンバーでもあり、ロシアの軍事侵攻を非難し、戦争の停止を求め、すべての

新兵に兵役拒否と代替市民サービスの申請するよう、あるいは医療上の理由による免除を要求しています。

そして、ウクライナの平和を支持する平和集会が世界各地で開催されています。ベルリンでは50万人の人々が戦争に反対して立ち上がっています。イタリアやフランスでも反戦運動が行われています。(日本の)原水協の仲間は、プーチンの核の脅威に対して、広島と長崎で抗議集会を開きました。

ウェブサイト WorldBeyondWar.org で最近の国際的、米国的な反戦イベントを探してください。ウクライナでの戦争を止めるための3月6日のグローバル行動デーに参加するようお勧めします。

「**ロシア軍は撤退せよ NATO の拡大もノーだ**」というスローガンのもと、米国の平和団体「コードピンク」をはじめとする平和団体が主催しています。

ロシアとウクライナがこれまで停戦交渉に失敗し、民間人を避難させる安全な人道的回廊についてさえ合意できなかったことは残念です。ウクライナとロシアの交渉は、停戦を達成できませんでした。

プーチンは、ウクライナの中立的地位、非ナチ化、非武装化、そして国際法に反するクリミアのロシアへの併合を承認するよう求めています。**我々はプーチンの要求を拒絶します。**

ウクライナの交渉代表団は、停戦とロシア軍のウクライナからの撤退のみを議論する構えでした。なぜなら領土保全はウクライナにとって重要だからです。ウクライナはドネツクへの砲撃を続け、ロシアはハリコフや他の都市を砲撃しました。ウクライナもロシアの両方が好戦的で、沈静化する気がないのです。

プーチンとゼレンスキーは、互いに排他的な立場で争うのではなく、責任ある政治家、国民の代表として、共通の公益に基づいて、真剣に、誠実に和平交渉に取り組むべきです。

## **軍事化に取り込まれたゼレンスキー大統領**

**司会** ゼレンスキー大統領は、侵攻以来、多くの西側メディアで英雄として讃えられています。この危機の中で、ゼレンスキー大統領がどのような働きをしてきたのか、あなたの評価はいかがでしょうか？

**シェリアゼンコ** 彼は、戦争マシーンに完全に取り込まれてしまっています。軍事的な解決を追い求め、プーチンに電話して直接戦争の停止を求めることもしていません。

そして、私の願いは、世界中の人々の支援をえて、権力に真実を語りかけ、銃撃をやめて対話を始めるよう求めることです。

必要な人々を援助し、平和文化と非暴力的市民としての教育に投資することで、軍隊も国境もないより良い世界を共に築くことです。私は、非暴力が、グローバル・ガバナンスや社会的・環境的正義のためより効果的で進歩的な手段であると信じています。

組織的な暴力や戦争が神業のような万能薬で、すべての社会問題を解決するという妄想は誤りです。

今の状況はアメリカとロシアによるウクライナの支配権争いの結果でもあります。西側と東側が互いに課している制裁は、アイデア、労働力、商品、財政の世界市場を弱めることはあっても、分裂させることはないでしょう。グローバル市場は必然的にグローバル政府の中にその必要性を満たす方法を見出すでしょう。問題は、将来の世界政府がどの程度文明化し、どの程度民主化されるかということです。

軍事同盟は、絶対的な統治者の維持を目的とするメカニズムです。

それは民主主義ではなく専制主義を促進します。NATO 加盟国がウクライナ政府の統治者を支援するために軍事援助を行うとき、あるいはロシアがドネツクやルハンスクの分離主義者を支援して軍隊を送るとき、「抑制されない主権」による統治は流血をもたらします。

その果実は明らかに民主的な価値ではありません。そのことを忘れてはなりません。

すべての民主主義国は、血に飢えた主権者、個人および集団的な統治者に対する抵抗から生まれました。西洋の戦争利得者は、東洋の権威主義的な支配者と同じように、民主主義に対する脅威となります。そして、地球を分割して支配しようとする彼らの試みは、本質的に似ているのです。

NATO はウクライナ周辺の紛争から手を引くべきです。紛争は、ウクライナ政府

による加盟願望と好戦的な態度を NATO が支援することでエスカレートしたのです。そして、理想的には、NATO は解散するか、あるいは軍事同盟ではなく、軍縮同盟に変わるべきです。そして、もちろん.....。

## 西側の軍事援助は紛争を拡大

**司会** ゼレンスキー大統領が欧州議会で ビデオ演説をしました。そして欧州議会はウクライナの欧州連合（EU）加盟を承認しました。それに対するあなたの反応は？

**シェリアゼンコ** 欧州連合（EU）は西側民主主義国家の同盟で、（本来は）平和的な連合であり、それに加盟することは国としての誇りを感じます。そして将来は世界中が平和連合になることを願っています。

しかし、残念ながら、EU もウクライナも、軍事化という同じ問題を抱えています。EU というヨーロッパの平和機構がウクライナに軍事支援を行っています。現在の危機を非暴力で解決し、非軍事化するための支援はほとんど行われていません。これはオーエルの小説「1984」にでてくる、戦争する「平和省」のようです。

私はウクライナがヨーロッパに属し民主主義国家であることを望みます。ですから EU 加盟申請が認められたことは素晴らしいと思います。しかし、この**西側の強化は、いわゆる敵、東側に対する強化であってはならない**と思います。

東西は平和的な和解を見だし、グローバル・ガバナンス、軍隊や国境を越えた世界の人々の結束を追求すべきです。

西洋の統合が、東洋に対する戦争につながるものであってはなりません。東西は友人であり、非武装で平和に暮らすべきです。もちろん核兵器禁止条約は、切実に必要とされている完全な非軍事化の場の一つです。

今、私たちは、国民国家の主権に基づく古風なガバナンスの問題を抱えています。例えば、ウクライナが多くの市民にロシア語で公的活動に参加することを禁止しても、それは普通のことのように思われます。主権の（行使）のように見えるのです。しかしこれは正しいことではありません。

もちろん、プーチンが主張するように、侵略や軍事侵攻の正当な理由にはなりません。西側諸国はウクライナに対して、人権は非常に重要な価値であり、言語

的権利を含む表現の自由は重要であり、政治生活で親ロシア人やロシア語を話す人々を尊重することは重要であると何度も言うべきです。

隣国やウクライナにいるディアスポラの文化を抑圧することは、もちろんクレムリンを激怒させることになります。そして、クレムリンを激怒させました。そして実際、この危機はエスカレートするのではなく、緩和されるべきなのです。そして、ウクライナがヨーロッパの国家として承認されたこの実に素晴らしい日を、ヨーロッパとロシアの間の対立、軍事的対立の前奏曲にしてはならないのです。

私は、ロシアもウクライナから軍を撤退させ、欧州連合に加盟することを願っています。欧州連合と上海協力機構、その他の地域連合、アフリカ連合などが、将来、イマニュエル・カントがその美しいパンフレット『永久平和』で構想した、統一した世界政治体、世界統治の一部になることを願っています。

**司会** ウクライナは特定の地域に飛行禁止区域を設けることを要求しています。その場合、その場合当然、EU とアメリカの軍隊によって飛行禁止が強制されなければなりません。ウクライナ上空での飛行禁止区域の設定について、どのようにお考えですか。

**シェリアジェンコ** これは戦闘のエスカレーションという路線の延長線上にあるものです。それは軍事面で一致団結して、西側全体を巻き込んでロシアに対抗するという路線の流れです。

プーチンは核の脅威でこれに答えています。それは彼がすでに激怒しているからです。彼は激怒すると同時に恐れています。キエフにいる私たちも、西側も事態を恐れています。

今、私たちは冷静であるべきです。理性的に考えるべきです。

たしかに今は団結すべきときですが、**紛争をエスカレートさせ、軍事的対応をす**  
**るために団結してはなりません。**紛争の平和的解決、プーチンとゼレンスキー、ロシアとウクライナの大統領、バイデンとプーチン、米国とロシアの間の交渉を追求するために団結するべきです。

未来についての平和的な話し合いがカギです。なぜなら、人は将来への希望を失ったときに戦争を始めるからです。今日、私たちは将来への希望を蘇らせる必要があります。

私たちには話すべき内容があり、平和を愛する文化があります。それは世界中で発展し始めています。しかし一方では暴力を賛美する古臭い文化、社会構造化された暴力、文化を装った暴力があります。そしてもちろん、ほとんどの人は天使や悪魔になろうとするつもりはなく、ただなんとなく平和の文化と暴力の文化の間を漂っているのです。

**司会** ロシア軍の車列はキエフに迫っていますね。多くのウクライナ人が退去してますが、あなたも退去するつもりですか。ポーランドやルーマニアなどの国境を越えて、50万人のウクライナ人が去ったと言われています。それとも、ここにとどまるのでしょうか？

**シェリアジェンコ** 先ほど申し上げたように、ロシアとウクライナの間で合意された、民間人を退避させるための安全な人道的回廊は存在していません。これは交渉の失敗の1つです。

また、先ほども申し上げたように、わが国の政府は、すべての男性が戦争に参加すべきと考えており、兵役に対する良心的拒否の人権をあからさまに侵害しています。ですから、平和主義者が逃げることはできません。

私はここで平和なウクライナと一緒にいます。そして、平和なウクライナがやさしさを失い、軍国主義化した世界によって破壊されないことを望んでいます。

(了)